

クローズアップ NGO・NPO

NPO法人

ハーベストタイム 代表 津田 久美子

美味しいコーヒーの一杯でアフリカ農民支援 生活・教育環境の向上目指し、手作り支援

■ 設立のきっかけは、 ■ 世界的な「コーヒー危機」

2001年からの世界的なコーヒー価格の暴落は、農民だけではなく、エチオピア国家にとっても存亡の危機でした。当時エチオピア大使館に勤務していた関係で、農民がコーヒー生産を放棄し都市に流入する、チャット栽培に切り替える等の深刻な実情を知り、コーヒーを通して何とか支援できないか、との思いが強くなり、2005年NPO法人ハーベストタイム（HAT）を設立しました。

現在、収益事業として、東アフリカ4か国（エチオピア・タンザニア・ルワンダ・マラウィ）のいずれもスペシャルティコーヒーを取り扱っています。

■ コーヒー販売収益を直接還元する ■ 農民支援

収益事業の開始と同時に、毎年、東アフリカの生産国のコーヒー栽培地・加工場を訪問し、農民が置かれている環境や暮らしの様子などを日本の皆さまにご報告してきました。

そして、販売収益を農民に還元する有効な支援は何かと考え、生活・教育環境の向上に寄与できるよう取り組んできました。

■ 千葉県松戸市と協働で、 ■ エチオピアとマラウィに自転車贈与

2006年、エチオピアのコーヒー産地「イルガチエフェ」を訪問しました。農民たちはコーヒー

森林に覆われた山々に代々住み続け、コーヒーを生産しています。しかし、農作物を、また病人を運ぶ運搬手段がありません。帰国後、事務所のある千葉県松戸市に「放置自転車（毎年1万台以上発生）をアフリカの学校や農民に贈りたい」と要請しました。

松戸市では、これに対し「市の国際貢献事業」、また「もったいない運動」推進の上から、開発途上国への中古自転車の提供に賛同しました。

市が自転車113台を整備して無償提供、HATは、エチオピアへのコンテナ輸送費用をコーヒー販売収益から充当し、現地2か所で贈与式を行いました。



シャエメネ（エチオピア）自転車贈与式 2007年

2009年には、マラウィへ、市からの103台の自転車と、併せて無電化地域へソーラーLEDライト50セット、学校へ文房具を贈与しました。



ムズズ（マラウィ）自転車贈与式 駐マラウィ日本大使も出席 2009年

また2009年よりマラウィ国立ムズズ大学の優秀学生に、奨学金（国際友好賞）を毎年授与しています。

■ 年々、貧富の格差が増大する現実

2006年から東アフリカ各国を毎年訪問して強く感じるのは、各国とも都市部と地方との貧富の格差が、年々増大していることです。都市部では高層ビルやホテルが急激に増え、富裕層が快適な生活を楽しんでいますが、地方では雇用機会がほとんど無く、ほそぼそと自給自足の生活を強いられています。

2008年には、ルワンダを訪問しました。1994年のジェノサイド以降、コーヒー産業は米国際開発局 (USAID) から資金・技術の支援を得て、生産設備の充実、品質向上、従事する農民の拡大など、国家経済の中心的な産業へと成長していました。一方、コーヒーなどの収入源を持たない農民は、経済成長や開発から取り残され、今まで見られなかったような大きな格差、二重、三重の格差が存在しつつある状況でした。

■ バナナ・ペーパーで雇用創出を!

ルワンダではジェノサイドで多くの未亡人が残されました。そんな彼女たちも働けるよう、現地の材料を使った商品を開発して雇用創出はできないだろうか、との思いを強く持つようになりました。

その後2009年の訪問時に、群生するバナナの木々から捨てられる枝や幹を使い「バナナ・ペーパー」の生産ができるのではないかと考えつきました。



バナナは主食の1つ。農民は毎朝、市場にバナナを運びます。茎や幹は廃棄されます。

■ ルワンダで、紙漉き技術のワークショップ

帰国後、各地の“和紙の里”を訪ね、紙漉き技術を学びました。ところが、バナナ繊維は大変固く、機械・薬品を使用しなければ、パルプ加工は至難です。試行錯誤を繰り返し、岩手県・相澤征雄氏のアドバイスも受け、ようやく化学薬品不使用の手漉きバナナ紙が完成しました。

この間、2011年1月に、ルワンダ国内3か

所で、木陰や炎天下で、また教室を借りて「バナナ・ペーパー・ワークショップ」を実施しました。参加した女性、壮年、コミュニティー役員や学生などは興味津々、想像以上の反応に、自信を深めました。



ルワンダ・キブンゴに、HATバナナ・ペーパー工房が完成 (2011年12月) 開所式には、キブンゴ市長ほか、多くの来賓が出席し、就労機会の創出に大きな期待が寄せられました (工房内で。中央は市長)。

■ ルワンダ・キブンゴに HATバナナ・ペーパー工房

ルワンダ・キブンゴ手工芸品販売組合と協議し、JICA青年海外協力隊員のサポートを得て、2011年12月、同組合敷地内に、HATバナナ・ペーパー工房が完成しました。日本から道具類、ミキサー、ステンレス寸胴鍋^{ずんどう}などを持ち込み、組合スタッフに紙漉き技術を指導し、本年2月、待望の「バナナ・エコ・カード」の生産を開始しました。

■ 地球環境保全の“エコリサイクル” & “フェア・トレード” で日本の皆さまにご紹介!

非木材であるバナナ茎の再生利用は、森林資源の保護に寄与し、地球環境を汚染しない、まさに“エコ・ペーパー” (バナナ繊維100%) なのです。

現地で最終工程まで生産される「バナナ・エコ・クラフト」は、カラフルなアフリカ布とのコラボや、現地の文化を映すスクリーン・プリントのデザインなど、温かみを感じさせる魅力的な作品です。

私たち、NPOハーベストタイムは、現地雇用を維持するため、バナナ・クラフト製品を現地工房からフェアトレードで入荷、日本の皆さまにご紹介しています。

多くの方に「バナナ・エコ・ペーパー」を知っていただきたい、特に、未来を担う中高生に、「アフリカ・ルワンダで、農民たちが日本の伝統技術で“エコリサイクル”に取り組んでいる」ことを、知ってほしいと切に願うものです。